

パウロからの伝言

シリーズ～コロサイの信徒への手紙～

2014/10/26

コロサイの信徒への手紙4:15~17

ラオディキアの兄弟たち、および、ニンファと彼女の家にある教会の人々によろしく伝えてください。

この手紙があなたがたのところで読まれたら、ラオディキアの教会でも読まれるように、取り計らってください。また、ラオディキアから回って来る手紙を、あなたがたも読んでください。

アルキポに、「主に結ばれた者としてゆだねられた務めに意を用い、それをよく果たすように」と伝えてください。

大切にしてもらいたい3つのもの 「教会」(家の教会)

- ラオディキアにも教会があった
 - コロサイの隣町
 - パウロはラオディキアの教会にも手紙を書いた
 - ニンファという女性が「家の教会」を開いていた
 - 家庭を解放して集まりを開いていた
 - 他にいくつもあった「家の教会」
 - 「アキラとプリスカが、その家に集まる教会の人々と共に、主においてあなたがたにくれぐれもよろしくとのことです」<コリントー16:19>
-

あなたの家も「家の教会」に!

□ 集まることの大切さ

- 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」マタイ18:20

□ 集まることの難しさ

- 時間と場所を合わせ、何かしらの準備をし、後片付けをしなければならない

□ 集まることによって成長する

- 「家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、…、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」使徒2:46-47
-

大切にしてもらいたい3つのもの 「手紙」(教え)

- パウロの手紙は「回覧」されていた
 - 「ラオディキアから回ってくる手紙」とは？
 - パウロは何通ぐらい手紙を書いたのか？
 - 信仰の基本は聞く(読む)こと
 - 「信仰は聞くことにより,しかも,キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」ローマ10:17
 - 伝えるために聞く(読む)
 - 「わたしが,自分勝手には何もせず,父に教えられたとおりに話している…」ヨハネ福音書8:28
-

大切にしてもらいたい3つのもの 「ゆだねられた務め」

- 「主に結ばれた者としてゆだねられた務めに意を用い、それをよく果たすように」
 - 私たちには「ゆだねられた務め」がある
 - 「務め」とはもともと「食卓の給仕をする」こと
 - イエス様は「務め」を弟子たちにゆだねられた
 - 「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」マタイ28:19
-

ゆだねられた務めに 意を用い、それをよく果たす

- ゆだねられた務めから目を離さない
 - 「意を用い」:原語では「よく見続ける」「注意して見続ける」という意味
 - 務めが与えられている幸い
 - 私たちは無目的に生きているのではない!
 - 自分一人で果たすわけではない
 - 「主に結ばれた者として」=イエス様が共におられる
 - 「武力によらず、権力によらず/ただわが霊によって、と万軍の主は言われる。」ゼカリヤ書4:6
-